

特集 沖ノ島祭祀を奉獻品から考える

1. 経緯

岡寺 未幾 福岡県九州国立博物館・世界遺産室

(1) はじめに

沖ノ島祭祀遺跡から出土した奉獻品は「東アジアの古代国家間の交流を物語る物証」として、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産としての価値の中核をなすものである。

昭和 29 年（1954）から昭和 47 年（1972）まで実施された 3 次にわたる学術調査で出土した国宝の数は 8 万点に上り、全てが国宝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品 伝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品（以下、「国宝沖ノ島出土品」とする）として指定されている。これらの国宝は宗像大社神宝館において常時公開され、金製指輪や龍頭、鏡や玉類・金属製品・滑石製品等、沖ノ島の祭祀を代表する資料が展示されている。沖ノ島祭祀遺跡の学術的な発掘調査の成果は 3 冊の大部な報告書にまとめられ、現在も沖ノ島を調査研究する上での重要な基礎資料となっている。

平成 28 年度から「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会では、国宝管理台帳にかかる整理と台帳のデジタル化を進めてきた。遺物管理台帳でリスト化されたものを概算すると、出土品の内訳は、土器 19%、金属製品 21%、滑石製品 46%、玉類 14% とその他に大別される。主要な奉獻品をみるとバラエティに富んでいるよう見えるが、実は偏りが多い。

報告書には、各時期を代表する特徴的な資料が掲載されているものの、全体のわずか 1 割に満たない。総数と報告書掲載数の隔たりを考えると、現在進められている沖ノ島祭祀遺跡にかかる調査研究は、報告書に掲載されているごく一部の資料で行われているということになる。出土品全体を再整理すると、その重要性にもかかわらず専門家にも認識されていない資料が確認できることを考える。再度、出土品全体を調査研究することは、未解明の事実を引き出し、沖ノ島祭祀遺跡の全貌

の解明に繋がると考えられる。あわせて、一部の出土品は発掘後、保存処理が行われ、平成 27 年度より継続的に国宝の修理事業が行われている。

しかしながら、それらは全体から見ると、ごくわずかにとどまり、手つかずのものが大部分である。特に出土遺物の 2 割を占める金属製品などは、経年変化による劣化が危惧される。風化により一度失われた情報を取り戻すことはできない。発掘から既に 50 年が経過した現在、今日的な視点から保存処理が必要な遺物の有無を再度、確認する必要があり、保存管理上からも、出土品の再整理が求められていると考える。

(2) 調査研究の課題

このような状況を踏まえ、令和 4・5 年に『国宝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品 伝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品 保存活用計画』（以下「国宝保存活用計画」という、宗像大社 2024 年）がまとめられた。

この計画で整理された国宝沖ノ島出土品の調査研究の課題は、以下の通りである。

- ①沖ノ島祭祀遺跡の発掘調査報告書である『沖ノ島宗像神社沖津宮祭祀遺跡』『続沖ノ島宗像神社沖津宮祭祀遺跡』『宗像・沖ノ島』には、各遺跡と遺構を代表する考古資料が実測図と写真図版で報告されているが、それらは一部であって、国宝沖ノ島出土品の大部分は実測図と写真が未作成で報告されていない。
- ②沖ノ島祭祀遺跡の全貌を解明する為の、国宝沖ノ島出土品全体の悉皆的な整理・調査研究がされていない。
- ③現在の研究水準と視点による学術的評価がされていない。
- ④返納品や流出品といった沖ノ島祭祀遺跡出土と伝えられる未指定品の学術的価値は定まつ

ておらず、こうした資料も対象に含む体系的な調査研究計画がない。

⑤沖ノ島祭祀遺跡の遺構に関しても、遺物とあわせて整理・調査研究をする必要がある。

この計画を踏まえ再整理の必要性を確認したもの、やはり8万点というのは膨大な資料である。このため、まずは国宝再整理に向けた課題の整理が喫緊の課題である。

（3）特別研究事業における検討

一方、令和6年度から5ヵ年計画で開始された第二期特別研究事業では、沖ノ島祭祀のより解像度の高い祭祀の解明が課題となっている。この課題に取り組むため、第二期では国宝部会を設け、国宝沖ノ島出土品の調査研究を開始した。なお、国宝部会のメンバーは以下の通りである。

国宝部会メンバー：

河野 一隆（東京国立博物館学芸研究部長）
辻田 淳一郎（九州大学教授）
橋本 達也（鹿児島大学博物館教授）
水野 敏典（奈良県立橿原考古学研究所）
岡寺 未幾（福岡県九博・世界遺産室）
太田 智（宗像市世界遺産課）
福嶋 真貴子（宗像大社文化局）

国宝部会は4名の古墳時代の研究者に依頼し、劣化が心配される金属製品と、最も数が多い石製品・玉類を対象とし、神宝館での実見による調査により、今後の国宝の調査研究に向けて必要な具体的な作業や課題について所見をいただくこととした。

令和6年度の活動は以下の通りである。

第一回 国宝部会

日 時：令和6年10月16日（水）オンライン
参加者：辻田、橋本、水野、福嶋、岡寺、太田

第二回 国宝部会

日 時：令和7年3月7日（金）

場 所：宗像大社神宝館

参加者：河野、辻田、橋本、水野、菊池、福嶋、太田、岡寺

国宝沖ノ島出土品調査

・石製品・石製模造品の調査

調査者：河野

日 時：令和6年8月1・2日、11月14・15日

・鏡の調査

調査者：辻田

日 時：令和6年10月11・25日、11月1日

・武器・武具等金属製品の調査

調査者：橋本、水野

日 時：令和6年9月24から27日

令和6年度世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群第3回公開講座「沖ノ島祭祀を奉獻品から考える」

日 時：令和7年3月8日（土）

場 所：海の道むなかた館講義室

参加人数：50名（抽選）

内 容：

「滑石製品から沖ノ島祭祀を考える」河野 一隆

「鏡から沖ノ島祭祀を考える」辻田 淳一郎

「武装具から沖ノ島祭祀を考える」橋本 達也

「金属製品から沖ノ島祭祀を考える」水野 敏典

パネル・ディスカッション

「沖ノ島祭祀を奉獻品から考える」司会 岡寺 未幾

本号に収録する沖ノ島の奉獻品に関するレポートは、宗像大社神宝館における国宝沖ノ島出土品調査の成果として、所見をまとめていただいたものである。

なお、これらの成果については、3日間もしくは4日間という非常に短期間のうちに調査いただいた所見であり、あくまで今後の再整理を考える上の検討材料として、現時点でのお考えをまとめていただいたものであり、本来的な調査成果としては、今後予定されている特別研究事業の成果報告を待たれたい。